

タイトル「**2019年度 教養科目シラバス**」、フォルダ「**2019年度 教養科目シラバス－シティズンシップ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

科目名	体験型マリンツーリズム実習					
担当教員	竹林 明					
対象学年		クラス				
講義室		開講学期	通年			
曜日・時限	集中	単位区分				
授業形態	講義・実習	単位数	2			
準備事項						
備考	全学部・全学年 人数制限有（30名）（高大連携4名、単位互換10名を含む）					
科目名（英語表記）	Marin Tourism Excercise on the Tall Ship					
授業の概要・ねらい	<p>本科目は(一社)グローバル人材育成推進機構と共同で計画した「大型帆船を用いた体験・学習型マリン・ツーリズムプログラム」を受講自身が実際に体験することにより、体験型・教育型マリンツーリズムの効用について考察することを目的とする。</p> <p>今回の体験型・教育観光プログラム(帆船体験)は航海体験を通じて、 ①「海洋国家日本の海自(海の使われ方や現状、課題)についての理解を深める」 ②「通常の体験観光や体験教育観光では経験・育成されにくい自己成長の体感」を企図している。 特に、チームビルディングスキル、リーダーシップスキルをはじめとし「非認知能力(自己認識、意欲、忍耐力、自制心、外的適性、創造性など)」の変化を感じることである。</p> <p>受講生の皆さんがこの体験型・教育型観光を自身で体験することにより企図したような効用があるかを感じ、体験型・教育マリンツーリズムの課題や効果を考察する。</p> <p>実際の体験は、全長52メートルの帆船「みらいへ(http://www.miraie.org/)」を利用した1週間の航海プログラム(和歌山港出航―徳島港着、徳島港からは南海フェリーにて和歌山港帰着解散)の中で受講生自らがチームに分かれ海洋についての理解を深めるとともに、基礎的な帆走技術・航海技術をチームベースで学び、最終的には受講生の皆さんだけで帆走し紀淡海峡横断にチャレンジします(紀淡海峡ヨットレースにチャレンジ)。 体験を通してチーム形成のプロセスやリーダーシップとは何かについて体感できます。自己研鑽にもなります。 本プログラムは帆走教育専門のインストラクターと担当教員の共同指導のもと十分に安全な確保を行っています。 なお、参加には後述する実費が必要です。 また、荒天の場合プログラム変更及び日程変更があります。 日程を変更する場合は翌週または9月第1週を予定しています。</p>					
授業計画	<p>8月10日～16日にかけて行います。和歌山港発着となります。</p> <p>・初日－和歌山港集合、プログラムの目的・概要説明、安全管理について「講義」の後乗船乗船後―アイスブレイキング(自己紹介など)、帆船での生活についての説明、和歌山の海と海海洋立国日本の海洋利用実態について「講義」、本体験での受講生自身の期待・不安・目標設定などフリーディスカッション、船内施設見学と説明、</p> <p>・2日目 帆船の構造と帆走メカニズムについて説明 チャレンジ・プログラム(展帆作業体験への準備となる船首渡り、マストのぼりなど)、展帆・畳帆体験(帆を上げたり畳んだりする)、操舵体験(実際に舵を動かす)、見張り体験、海図作業体験、ロープワーク。 夕方から一日を通した振り返り、翌日以降の課題・翌日の目標設定。</p> <p>・3～6日目 リーダーシップおよびチームについて講義ののち操船体験。。 班ごとに船内作業分担による自律的体験(自分たちだけで船を動かしてみる)。 徳島港に向かって、帆走計画を自分たちで立てて帆走させてみる。 紀淡海峡横断ヨットレースに参加(または、随帆走)。 徳島着岸後は下船。徳島市内見学観光と自由行動。</p> <p>・7日目 振り返りののち、後片付けをして下船。 南海フェリーにて和歌山港へ、フェリー船内でまとめの講義 和歌山港で解散。</p> <p>【注意】なお天候、海況により予定が前後することがあります</p>					
到達目標	体験では様々な「自主的チャレンジ(強制ではない)」が提供されます。それらを通した諸活動から体験型・教育型マリンツーリズムの今日の課題(海洋観光・環境・教育)について考えることができるようになる。 非認知能力について理解する。					
成績評価の方法	体験活動中の態度70%、最終レポート30%					
教科書	なし					
参考書・参考文献	適宜示す。					
履修上の注意・メッセージ	自己啓発を目的とした体験型・教育型プログラムを体験する学修です。一週間帆船生活を体験しますので、体調管理をお願いします。 なお、施設使用料(約5万円～6万円が必要です)。施設使用料には乗船代、宿泊代、食費、インストラクター費、保険代、などすべて含まれていますから乗船中に経費はかかりません。 なお、乗下船地までの交通費は含まれていません。					
履修する上で必要な事項	自立的に行動できること。					
受講を推奨する関連科目	わかやま海洋体験実習					
授業時間外学修についての指示	船内活動に必要な時間は確保できます。ただし、事後レポートは必須です。					
その他連絡事項	1.受講制限を超えて受講希望者があった場合は抽選選抜させていただきます。 また、船室(男女別船室)割り当ての都合があるため、受講生の性別が偏った場合も受講数を調整させていただきます。 使用帆船については http://www.miraie.org/ を参考にしてください。			2.体験中、今後の教育プログラム開発のために、何度か体験者の心身の状態についてアンケートを行いますので是非ご協力ください(任意)。	3.天候・海峡により予定が前後することがあります。帰港が遅れることも想定して予定に余裕をもってご参加ください。	4.質問等がある場合は担当者「竹林明」bamboo@wakayama-u.ac.jpまでお願いします。機構に直接問い合わせすることはご遠慮ください。
科目ナンバリング	C0070007J					